

立候補意思表明書（内田：738文字）

2007年に初めてJHF理事になってから、8年が過ぎました。この間に公益社団法人に移行するなど、連盟としての改革を実現してきましたが、フライヤー登録有効者数は減少を続け再活性化には至っていません。ハンググライディングの歴史と、過去に獲得した個人の自由を尊重して、フリーフライトを守ろうと努力してきましたが、近年では海外の事例からも事故「ゼロ」を実現しないと未来がないことが明白になってきています。徐々に始めてはきましたが、多少の痛みを覚悟する方針をもって、さらに効果のある政策を出していかないとはいけません。

正会員の皆様からは、もう4期も内田にやらせたのに人口増につながらないじゃないかというご指摘があるかも知れません。JHFを支えてくださる大勢の委員の方々と、議論を重ねて試行してきましたが、目に見える成果がないことは事実です。しかし、ドイツやフランスでは日本の3倍のフライヤー人口があります。総人口は、ドイツは日本の3分の2、フランスは半分ですから、環境の違いなどと諦めずにやるべき事を探っていきたいと考えています。ぜひ、今期の理事に再任をお願いいたします。

わたしは現在のJHF財務状況に誰よりも精通しています。現任の2年間には、年度ごとに大胆とは言えないまでも重点集中で投資した新施策がありました。大切な連盟資金を慎重に投入しますが、費用節約は多くの委員・関係者のボランティアに頼っている状況でもあります。そして、これらの活動に投じる余裕資金は順調に減少しており、これからの2年間に打つ施策が規模的には最後と考えています。何としても愛好者増につなげて、経済的にも活性化することが王道と思います。この仕事を引き続きわたしにやらせてください。よろしく願い申し上げます。

※ 役員選任実行委員会殿 この表明書は電子メールで提出しております